

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

* 「ダルメイヤー天体写真儀」 収蔵

戦前、神戸にあった射場天体観測所の機材一切が1946年東京天文台に寄贈されたことに関する記事をいくつか書いてきた。今回は射場天体観測所の主要望遠鏡であった7吋半屈折赤道義望遠鏡に同架されていたダルメイヤー天体写真儀を回収、収蔵した話である。アーカイブ新聞の読者であった愛知県東栄町にあった「金子天文台」に出入りしていた近藤秀人という人からダルメイヤー天体写真儀が金子天文台にあるとの連絡を受けたのである。写真1が射場天体観測所にあった7吋半屈折赤道義望遠鏡である。この望遠鏡の口径7吋

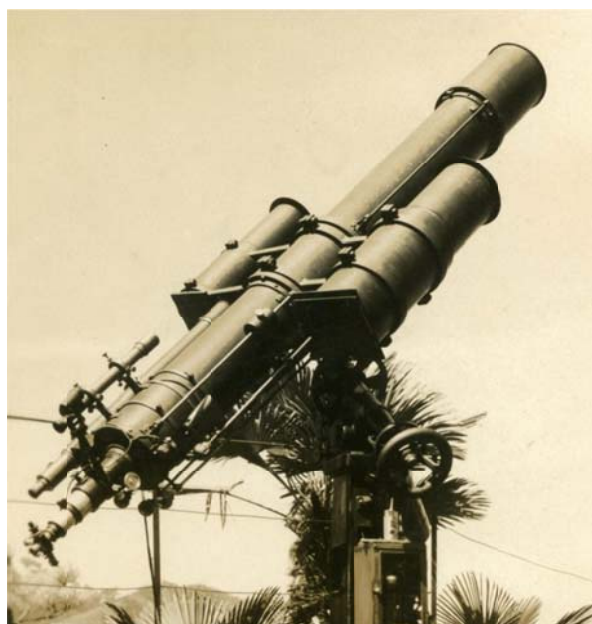


写真1

半の対物レンズは中村要が磨いたものだと言われている。この望遠鏡に2本の天体写真儀が同架されているが、左側の望遠鏡がダルメイヤー天体写真儀で、金子天文台に現存しているというビッグニュースが飛び込んできたのである。金子天文台を主催されていた金子功氏は2009年に91歳で亡くなり、奥さんもご高齢で、天文台を整理したいとのことで、金子氏の創意工夫を凝らした望遠鏡類がこの世から消えることを憂えていた近藤氏が国立天文台でアーカイブ活動をしている筆者にコンタクトしてきたのであった。国立天文台でアーカイブをしているものが調査に行くまでは整理しないでほしいと伝え、3月2、3

日にアーカイブ室から名前を変えたミュージアム検討室長の大島君と調査に伺い、とりあえずダルメイヤー天体写真儀を含む5点を譲り受けてきた。今回譲り受けてきたのは、1) ダルメイヤー天体写真儀(写真2)、2) セオドライト、3) セオドライト用木製3脚、4) 公転地球儀、5) 木製乳鉢である。

写真2

写真2のフードを外したところが、写真3である。また、レンズの名盤が写真4である。ダルメイヤーの名盤の書体は風格を感じるもので、LONDONという文字があり、イギリス製であることがわかる。

今回譲り受けてきたものは筆者が興味



を持ち、簡単に車に乗せられるものを選んだもので大きな意味はない。



写真 3



写真 4

射場天体観測所の射場保昭氏は1941年(昭和16年)4月の時点で日本にあった望遠鏡を網羅したリストを作成しており、屈折望遠鏡、反射望遠鏡、天体写真儀の一覧表があり、天体写真儀のダルメイヤーが記載された部分が写真5である。

Kobe.	Y. Iba Observatory.	8 $\frac{1}{2}$ "	F 5 Mirror, Portable Equatorial.	S. Kibe. Almin.
Kobe.	Y. Iba Observatory.	6 $\frac{1}{2}$ "	F 3 Petzval.	Astrograph. Voigtlander.
Kobe.	Y. Iba Observatory.	5 $\frac{1}{2}$ "	F 3.4 Portrait.	Astrograph. Hermagis.
Kobe.	Y. Iba Observatory.	5 $\frac{1}{2}$ "	F 4.5 Heliar.	7 $\frac{1}{2}$ " Refractor. Voigtlander.
Kobe.	Y. Iba Observatory.	4 $\frac{1}{2}$ "	F 4.5 Tessar.	--do-- Zeiss.
Kobe.	Y. Iba Observatory.	4 $\frac{1}{2}$ "	F 5. Tessar.	Astrograph. Zeiss.
Kobe.	Y. Iba Observatory.	3 $\frac{1}{2}$ "	F 4 Portrait.	In reserve. Dallmeyer. ←
Kobe.	Y. Iba Observatory.	3"	F 5.5 Dogmar.	--do-- Goerz.

Longitude 9 $\frac{1}{2}$ 0m 31.43 E. Latitude 34° 39' 18".2 N. Altitude 30 m.

写真 5

このダルメイヤー天体写真儀は、2014年9月1日～10月31日の間、京都大学総合博物館特別展「京大宇宙地球科学の黎明(仮題)」に、射場天体観測所ゆかりの品として7吋半屈折赤道義望遠鏡の対物レンズ、コルドバ天図、フランクリン・アダムス写真星図と

もに出展することになっている。この特別企画展は、当初、国宝「明月記」の客星記事を英文で初めて海外に紹介した射場保昭展として企画されたものだが、企画が発展し表題の企画特別展になったいきさつがある。

今回、譲り受けた品、セオドライト及び木製三脚が写真6、木製乳鉢が写真7、公転地球儀が写真8である。



写真6



写真8



写真7

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp